

2020年度次世代エネルギーワークショップ(若手社会人編)の概要について

2020年10月31日(土)及び11月9日(月)、衆議院第1議員会館大会議室において、日本の未来を担う若手社会人が一堂に会し、「次世代エネルギーワークショップ(若手社会人編)」を開催します。

1. 背景と目的

福島第一原子力発電所の事故(2011年)、パリ協定の発効(2016年)に伴う脱炭素化への要請など、エネルギーを巡る情勢は大変に厳しいものがあります。これらの課題に対して長期を見通してどのような道を選択すべきなのか、この徹底議論に、未来社会の主役となる若い世代の参加が強く求められます。

「次世代エネルギーワークショップ」は、「30年後のエネルギー選択を考える」をテーマとした、参加・熟議型のエネルギー教育プログラムです。このワークショップへの参加を通じて、次世代を担う若者達が長期の視点に立ったエネルギー選択・脱炭素社会づくりに関心を持ち、次の3つの能力を身につけることを目標としています。

- ① 系統だって理解する能力
- ② 多様な価値観・異なる意見を有した他者と意見を闘わせ、噛み合った議論を行う対話能力
- ③ 納得のできる考え方を導くための熟慮能力

2. 2020年度次世代エネルギーワークショップ(若手社会人編)の概要

➤ 実施体制

主催……次世代エネルギーワークショップ推進委員会

共催……一般社団法人 環境政策対話研究所

文部科学省、環境省、資源エネルギー庁、公的機関、民間団体等の後援、協力等の下に実施します。

➤ 日時、場所

10月31日(土)……専門家のレクチャー・質疑応答(Online形式にて実施)

11月9日(月)……ワークショップ(一日)

場所:衆議院第1議員会館大会議室(158-0094 東京都千代田区永田町 2-1-1)

➤ 参加者(45名程度)

40才以下の若手社会人。エネルギー供給側の企業に勤務する人、エネルギー需要(消費)側の企業に勤務する人、NPO活動に関わる人、公務員、研究者、社会人大学生、等。

➤ ワークショップの進め方

ワークショップの中心は対話であり、「4~7名程度のグループ討議」を基本とします。参加者が意欲的に自分の意見を述べ、他者の発言に耳を傾け、活発に議論を闘わし、目標に向けて議論を進めます。ワークショップの進行は次の2つを柱とします。

A……参加者がエネルギー・気候変動に関する「基礎情報を共有」すること

B……基礎情報を共有の上、参加者が「グループ討議」を重ね、熟慮し、確たる意見にたどり着くこと

本年度のワークショップのプログラムの案をP.4にお示します。なおプログラムの詳細は引き続き検討して参ります。

➤ ワークショップの成果(発表内容)

- ◆ 30年後(2050年)に目指すべき「未来社会像」
- ◆ エネルギー選択において重視した視点:「こだわること」「負わざるを得ない不利益」
- ◆ 未来社会における「エネルギー消費・電力消費」ー省エネルギーをどこまで徹底するかー
- ◆ 未来社会における「エネルギー供給」ー未来社会が消費する電力を供給する「電源構成」ー
- ◆ 脱炭素転換の実現のための課題
- ◆ 以上の検討によって得られた「気付き・討議の論点や争点・残された課題」

➤ ワークショップの円滑な実施

- * 公平・公正な運営管理に徹します。
- * 関連情報や知識に、できる限りの参加者間の共通基盤が形成されるよう、情報資料集(テキスト:100ページ余)を活用した学習機会を設けます。参加者にはワークショップの約1か月前にお届けします。
- * ワークショップには、エネルギー・気候変動問題の専門家が出席し、情報提供、助言等を行います。
- * エネルギー・シミュレーションを用います。知識学習やグループ討議を通じてたどり着いたエネルギーの選択について、3E+Sの視点などに照らした検証や、矛盾点や検討の不足等の確認を行います。
注:シミュレーションは、(公財)地球環境戦略研究機関(IGES)と(独政)国立環境研究所が開発した「2050 低炭素ナビ」を基に作成したモデルを活用します。
- * 討議は、予め用意された討議手法を用い、経験豊かなファシリテーターの進行に従って進めます。

➤ 講師等

(1) 専門家

- 杉山 昌広 (東京大学政策ビジョン研究センター准教授)・・・エネルギー
- 木村 浩 (NPO 法人パブリック・アウトリーチ代表理事)・・・エネルギー
- 荒井 眞一 (一般社団法人環境情報科学センター常務理事・技術顧問)・・・気候変動
- 亀山 康子 (国立環境研究所社会環境システムセンター副室長)・・・国際関係から見た気候変動・エネルギー問題
- 芦名 秀一 (国立環境研究所)・・・エネルギーシミュレーション

(2) ファシリテーター

- 村上 千里 (一般社団法人環境政策対話研究所理事・客員研究員)・・・メインファシリテーター

3. 今後のスケジュール

参加者の決定	2020年9月18日(金)
参加者 事前アンケート	2020年9月23(水)～28日(月)
情報資料集の事前配布	2020年9月下旬
ワークショップの開催	2020年10月31日(土)及び11月9日(月)
結果のとりまとめ、評価	2020年12月
報告書の作成・公表	2021年1月

4. 参加手続き

参加希望の方は、別紙の参加申込書によりお申し込みください。参加費は以下の通りです。

参加費	一般：20,000円(情報資料集代、飲食費、税込)
	個人・NPO職員・社会人大学院生：10,000円(同上)
	大学院生：3,000円(情報資料集代、飲食費、税込)

5. 備考

(1) 新型コロナウイルス感染予防対策について

感染予防対策には万全を期します。参加者・専門家・スタッフ等のマスクやフェイスシールドの着用、消毒剤の配備、三密状態とならないための会場対策、その他受付から開催に至る運営面での対策等を講じます。更に具体策を検討し、参加者には予め説明するとともに、必要なお願いをしたいと考えております。また、我が国における今後の感染状況等を注視し、ワークショップの実施方法を変更等、万全を期します。

(2) ワークショップにおける自由な討議の保証について

ワークショップでは、自由闊達に意見交換・討議していただきます。参加者の皆さんが、討議で学んだ様々な意見・考え方や成果をそれぞれの活動や日常生活の中で活用・引用していただくことは構いません。但し、発言者の特定化につながることは一切しないことを基本ルールとします。

主催者はこの原則の徹底を図ります。ワークショップの結果は、報告書としてまとめ、HP等で公表します。ただし、発言者が特定されないようし、個人情報の管理には責任をもって十分な注意を払います。

(3) 傍聴・取材について

傍聴・取材については、新型コロナウイルス対策としての会場の三密状態の回避のため、参加人数を制限させていただくとともに、討議の場から少し離れた所定の場所にお座り頂きます。静穏な雰囲気維持にご協力頂きます。傍聴・取材をご希望の方は、予め事務局にご相談ください。

<参考> 次世代エネルギーワークショップ(若手社会人編)は、2016年度から実施し、今回は5回目になります。2017年度からの参加者の実績は以下の通りです。

分野・業種	2017年度	2018年度	2019年度	合計
エネルギー関連(電力、重電、再エネ等)	6	15	16	37 (26.4)
製造業	1	5	7	13 (9.3)
サービス部門(金融・商社・情報・運輸等)	8	1	5	14 (10.0)
建設・土木	5	2	1	8 (5.7)
環境ビジネス	3	0	0	3 (2.1)
シンクタンク・コンサルタント・	2	4	4	10 (7.1)
経済・産業系団体	6	1	4	11 (7.9)
NPO、地域組織、消費者団体等	2	5	5	12 (8.6)
研究者(大学・研究所等)	0	6	0	6 (4.3)
自治体、公的機関等	1	2	4	7 (5.0)
大学院生	2	7	5	14 (10.0)
その他(メディア、個人参加等)	2	2	1	5 (3.6)
計	38	50	52	140

ワークショップのプログラム(案)

プログラム1日目:10月31日(土)

【ファシリテーター:村上千里】

12:30	Web 会議立ち上げ、受付(チェックイン)開始	
13:00	開会 全体オリエンテーション	
13:15 (100分)	エネルギー・気候変動問題に関する専門家のレクチャー 杉山昌広(東大政策ビジョン研究センター准教授)・・・脱炭素・エネルギー選択の今日的意義 荒井真一(一般社団法人低炭素社会創出促進協会事業評価部長)・・・気候変動 木村 浩(特定非営利活動法人パブリック・アウトリーチ代表理事)・・・エネルギー 亀山康子(国立環境研究所)・・・気候変動・エネルギー政策の国際展開・動向	
14:55	休憩	
15:05	グループワークの説明	
15:15 (45分)	グループ作業・・・専門家への質問づくり 事前学習と、専門家のレクチャーを踏まえて、 ➤ 理解を深める ➤ レクチャーを聞いての気づき、質問づくり	ZOOM ブレイク アウトルーム活 用
16:00	休憩 専門家:質問分析と回答方針等を協議	
16:10 (65分)	専門家との Q&A セッション ➤ 質問の趣旨の説明 ➤ 専門家より回答	
17:15	ワークショップの進行における「5つの未来社会像」と「8つの視点」	
17:30	事務連絡・・・次回までダイヤモンドランキング表に必要な事項を記入する等	
18:00 まで	直前アンケートに回答して、各自 OnlineWS 終了	

プログラム 2 日目:11月9日(月) (集合形式@衆議院第1議員会館)

【ファシリテーター:村上千里】

8:30	開場	
9:00	開会挨拶、オリエンテーション 1日目の振り返り等、アイスブレイク	
9:20	類似価値観グループの編成 「5つの未来社会像」「8つの視点」を用いる	
9:35 (65分)	グループ討議 I 自己紹介、グループ名を考える。 <u>エネルギー選択の討議結果を集約し、一次案作成</u> 基本は定性的な検討。ただし、次のエネルギーシミュレーションにつながるように、大まかな定量感は予め検討しておく。	

10:40 (40分)	エネルギー・シミュレーション パソコンのセッティング 概要説明、グループごとにシミュレーション実施(一次案の定量的検証)	進行: 芦名秀一
11:20 (40分)	エネルギー・シミュレーション結果の振り返り <ul style="list-style-type: none"> ➤ 振り返り(シミュレーション結果の解説、エネルギー選択の反映) ➤ 専門家との Q&A(質問・気づき、専門家からの回答・助言等) ➤ シミュレーションの修正等 	
12:00	休憩	
13:00 (50分)	グループ討議 II <ul style="list-style-type: none"> ➤ <u>エネルギー選択に関する討議の結果、二次案の作成</u> (最終シミュレーションを確定し、一次案を修正して二次案作成) ➤ <u>深掘り討議テーマの抽出</u> ここまでの討議の中から、更に他のグループメンバーも交えて議論を深めたい深掘り討議テーマを明らかにする。 ➤ <u>発表の準備</u> ➤ 直ちに二次案を会場内に貼り、併せて深掘り討議テーマを掲げる 	必要に応じ専門家に質問
14:00	会場内を回覧(休憩)	
14:20 (115分)	二次案の発表と深掘り討議テーマに関する討議 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 二次案の概要説明と質疑応答 ➤ 深掘り討議テーマ及びその背景を説明 ➤ FA に深掘りすべき討議テーマとその討議の進め方の説明 ➤ 深掘り討議の実施 	専門家は随時討議に参加
16:15	休憩	
16:25 (45分)	グループ討議 III <ul style="list-style-type: none"> ➤ <u>深掘り討議からの課題・学びを中心に意見交換→最終案作成へ</u> ➤ <u>討議の結果を追記し、最終案を完成(二次案を修正)</u> ➤ <u>辿り着いた未来社会像の概念・特徴・課題→ネーミング。</u> ➤ プレゼンテーションの準備 	必要に応じ専門家に質問
17:10	休憩 ※最終プレゼンテーションの準備を終わらせる	
17:15 (45')	プレゼンテーション … 最終案・討議の変遷・気づき・発見等を中心に、各グループの代表が1~2名で行う	
18:00	専門家の講評	
18:15	閉会挨拶	
18:20	事後アンケート記入・終了	
18:45	名刺交換交流会(原則参加、退席自由)	参加者交流の場
19:30	最終終了・撤収	

